命ぬ水

沖縄県　具志川中学校　二年　　玉城　梨花

私は、沖縄の水不足をなくすために、洗濯の回数を減らす、野菜や食器は、「ため洗い」をすることなど、普段から節水に心がけています。しかし、生活排水がそのまま海や河川に直接流れてしまうと、それに含まれる有機物や洗剤などの汚濁物質が増えてしまうそうです。汚濁物質が増えることで、汚れが自然の力で分解されないまま残り、この状態が続くと、細菌や微生物が水中の酸素を消費しながら活動量を増加させることで、水が酸素のない状態になるそうです。だから、節水と共に生活排水の汚れも減らしていくほうがよいと思います。

なぜ、このように考えたのかというと次の三つの理由があるからです。

一つ目は、私たちの住む沖縄は、山が少なく、川が短いという地形のため、水不足になりやすいと知りました。その上で、水不足にならないためには、どうすればよいのかを考えたくなったからです。

二つ目は、水が枯渇したり、汚染されるとすべての生物が絶滅する可能性があり、環境も悪くなるということです。

三つ目は、このまま水不足だと給水時間が制限されたりと、私たちの生活にも関わってくる可能性が高いからです。

沖縄県公式ホームページによると、沖縄本島地域は令和五年九月から少雨傾向にあり、ダム貯水率が低下した場合、給水時間を制限されることがあるかもしれないそうです。

ダムの問題以外にも、以前から米軍基地からの科学物質ＰＦＡＳがあります。そのＰＦＡＳとは、人体に取り込まれると、高脂血症、動脈硬化、糖尿病、甲状腺機能低下症、肥満、水を飲んだ妊婦さんが産んだ赤ちゃんに低体重が増えたり、様々な健康への悪影響を及ぼす可能性があるそうです。そのＰＦＡＳが川に流れ込んでいる事実が私たちの身近で起こっています。近年は、ＰＦＡＳの詳しい調査で、改めて危険性が注視され、私たちにも影響が懸念されているようです。ニュースによると、ＰＦＡＳは、空港や米軍基地などで使われる泡の消化剤の一部が周辺の地域で、土壌汚染が発生し、地下水に入ってしまうらしいです。そのことに関して、国の専門家会議によると、被害が起こらないように、防ぐための検討を進めているそうです。また、水道局では、定期的に水質検査を行うように対策を行っています。

このＰＦＡＳに関しては、琉球朝日放送がドキュメンタリー「命の水」を放送しています。その内容によると「環境中で分解されにくく、一度体内に取り込まれると長く蓄積されてしまうため「永遠の化学物質」と呼ばれ、沖縄県民の命が脅かされている状況を追っています。沖縄戦だけでなく、米軍統治下、大和世と貧しく、苦しい生活を支え、人々の命をつないできたのは、地中から湧き出す「命ぬ水（ぬちぬみじ）」だった。」と紹介されています。この番組は、「命ぬ水」について、知って欲しいという願いが込められています。

この番組を見る前までは、私たちが、何気なく口にしている「水」が、自分たちの命を奪いかねない可能性があるとは、おもいませんでした。ＰＦＡＳ問題を決して、他人事だと思わずに、「水」に関心を持っていきたいです。「水」は、限りある資源であり、「命ぬ水」でもあることを心にとめ、大切にしていきたいです。